

県警 災害現場想定し訓練 がれきからの救助方法確認

災害現場で活動を円滑、
確実に進むため、県警は25
日、八街市内の解体工事業
社「大同産業」の敷地内で、
がれきからの救出訓練を行
った。同訓練は今年2月に
続いて2回目。機動隊員や
周辺署員ら約130人と、
NPO法人日本救助犬協会
の救助犬11頭も参加。救助
方法や互いの連携手順を確
認した。

訓練は、地震で建物が崩
壊して多数ががれきの下敷
きになったと想定。機動隊
員らは一斉に動きを止める
とかすかな音を聞き分けな
がら、U字溝に閉じ込めら
れた被災者役を探し当て救



がれきの中から被災者役を助け出す県警機動隊員ら
＝八街市の大同産業(県警提供)

助した。また、救助犬が発
見した被災者役を、機動隊
員と同社の重機が共同作業
でがれきを撤去して助け出
した。

消防学校への入校経験の
ある機動隊員が、U字溝内
など狭い場所からの救出方
法や専用の器具の扱い方を
実演。同社の関係者はコン
クリート製電柱の破壊や内
部の鋼線の切断の仕方を伝
授した。

県警警備課は「被災現場
そのものの状況で貴重な訓
練ができた。今後、部隊間
で技術の向上を図るとも
に、さまざまな現場を想定
した訓練を行い災害に備え
たい」と話している。